

オリンピック・パラリンピックでみた風景

長い夏休みが終わりました。新型コロナウイルスの感染がなかなか収まらないので、夏休みの延長や分散登校等がありましたね。今日から、全員そろっての登校です。

さて、今年の夏休みは東京オリンピック・パラリンピックがありました。特別な夏休みでしたね。中には、パラリンピックの観戦に行った人もいます。

オリンピックもパラリンピックも日本人は大活躍でした。水泳の大橋選手、卓球の混合ダブルス、車いすラグビーの銀メダル、女子のパラマラソン等、スポーツの楽しさや日本人の活躍を味わうことができました。

そんな中、私は二つのシーンが忘れられません。

一つ目は、体操の内村航平選手です。内村選手は今までのオリンピックで7個のメダルをとっている素晴らしい選手です。今回のオリンピックは練習に練習を重ね、鉄棒の1種目だけの出場でした。

演技が始まって 秒後、鉄棒から手が離れ落下してしまいました。結果は予選落ち。内村選手のオリンピックは30秒で終わってしまいました。

でも内村選手は、自分の試合が終わっても、必死に後輩たちの演技を見て声をかけ続けていました。内村選手のその姿が印象的でした。

二つ目は、陸上男子400mリレーです。史上最高のメンバーと言われた4人が出場しました。しかし、一人目の多田選手から山縣選手との間でバトンパスのミスがあり、二人目、三人目、四人目の選手は走ることもできなかったのです。三人目の桐生選手はオリンピックの出場はこのリレーだけでした。どれだけ悔しかったか想像できます。

でも、桐生選手は責任を感じている多田選手と山縣選手のもとへ駆け寄って、必死に慰めています。その輪に小池選手も加わり、みんなだれの責任にするでもなく、失敗を言い訳するでもなく、今までがんばってきたお互いを認め合っていました。

オリンピック・パラリンピックは、私たちに多くの素晴らしい風景を残してくれました。皆さんはこれから「体育の日」の練習が始まります。助け合って、認め合って練習に励んでください。